

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）
医療・教育・福祉の連携による行動障害のある児・者への支援方法に関する研究
主任研究者 井上雅彦

分担研究報告書

強度行動障害支援者養成研修における WEB 版行動観察シートの効果

研究協力者 中谷啓太（鳥取大学医学系研究科臨床心理学専攻）
研究分担者 東野正幸（鳥取大学総合メディアセンター）
川村尚生（鳥取大学工学研究科 情報エレクトロニクス専攻）
主任研究者 井上雅彦（鳥取大学医学系研究科）

研究要旨

機能分析による介入において、行動の記録は、情報の共有、対象事例の客観的観測等に関連する重要な要因である。しかし何らかの要因で、記録に不備や不明な点があった場合は、コンサルテーションや情報共有は困難になる。我々の研究班では、昨年度、正確かつ容易な問題行動の記録と情報の共有を支援する WEB 版行動観察シートを開発した。本研究では、強度行動障害支援者養成研修における参加者を対象に、アプリケーション利用した群と利用していない群を比較/検討することで、本システムの効果と課題を明らかとすることを目的とした。結果、WEB 版行動観察シートは記録者の支援ツールとして記録の具体性の向上などに寄与することが明らかとなったが、WEB 利用のための職場の WEB 利用環境の整備、マニュアル配布やテクニカルサポートの充実が活性化の要件であることが改めて確認された。これらの環境条件が乏しい中では ICT 導入が支援者にとって非効率的だと感じさせてしまう可能性があり、それぞれの職場環境の違いに配慮した選択可能なツール提供が必要であると考えられた。

A. 研究目的

学齢に重篤化する強度行動障害の予防と治療のための研修及びコンサルテーションを実施する場合、学校・福祉・医療機関における正確な情報の共有が重要となる。しかし、実際の現場においては、連携に必要な情報を不足なく効率的に収集することが困難な場合や、現場における問題行動の測定が困難な場合があり、これらの問題を緩和するシステムが必要

となる。

井上ら(2014)は、強度行動障害者支援者養成研修として基礎研修と実践研修以外に、Plan-Do-See 型の専門研修を実施し、効果検証を行っている。この研修において最初に求められるのが 行動観察シートを使用した行動観察である。行動観察シートとは、標的となる問題行動と事前事後を一定期間、記述的に記録することで、介入計画を立案する手がか

りを得るツールである。

行動観察シートのフォーマットは、1つの標的行動に対して「事前」「行動」「どのように対応したか」「事後」の4項目を記述するスペースが設けられており、記述方法は研修の中で説明される。しかし記録に不備や不明な点があった場合コンサルテーションや情報共有は困難になる。そこで我々の研究班では、昨年度、正確かつ容易な問題行動の記録と情報の共有を支援するWEB版行動観察シートを開発した。WEB版行動観察シートは、不足する情報をアプリケーションがリアルタイムで指摘することで正確な情報の記録を支援し、かつ複数の機関で情報共有可能なツールである。

本研究では、強度行動障害支援者養成研修における参加者を対象に、アプリケーション利用した群と利用していない群を比較/検討することで、本システムの効果と課題を明らかとすることを目的とした。

B. 研究方法

対象および期間

2015年8月から2016年1月にかけて、X地域で行われた強度行動障害支援者研修の実践研修に参加した18名を対象とした。

使用ツール

東野ら(2014)によるWEB版行動観察シートを用いた。WEB版行動観察シートとは、標的行動を客観的に評価するためのツールである行動観察シートをアプリケーション化して記録する事ができる。

WEB版行動観察シートでは、従来の紙ベースの行動観察シートの記述をより具体的にするために、従来の行動観察シートのフェイスシートのような空欄に該当情報を記述するの

ではなく、複数の質問項目に対して、一つ一つ記述していく形式をとっている。また、それまで記述した内容をオートコレクトの要領で自動予測する機能を実装しているため、同じ記述をする回数が多くなりがちの強度行動障害を対象とした行動観察では、入力の手間を省くことが可能となっている。また、不足する情報をアプリケーションがリアルタイムで指摘することで正確な情報の記録を支援することができ、行動記録に慣れていない人でも記入すべき内容をピンポイントで記録することが可能となる。記録した行動は、従来の行動記録シートのような形でアウトプットが可能である。

WEB版行動観察シートでは、インターネットに接続されているデジタルデバイスで記録が可能であり、そのデータベースは鳥取大学内にあるサーバーを利用した。

セキュリティ

セキュリティに関しては、信頼性の高い大学内のサーバーを利用するとともに、記録を行う際は、対象となる方の氏名ではなくニックネームや識別子を用いることで、個人情報の流出リスクを低減させた。

分析方法

本研究における分析対象は、研修参加者が最初に記入した行動観察シートと、研修最終日に配布/記入してもらったアンケート用紙(参考資料1)の2つである。研修参加者18名に対して任意でWEB版行動観察シート、もしくは紙ベースの行動観察シートを選択して利用してもらい、参加者が記入した最初の行動観察シートを回収後、WEB版行動観察シートによる行動記録と紙ベースのもの2群に分け比較分析対象とした。

記述分析指標

行動観察シートにおいて、記述する必要性の高い項目を行動分析および強度行動障害の専門家2名が12に分け(表1)、その項目を元にそれぞれの群の行動観察シートを得点化して分析を行った。得点化を行う際、12項目をそれぞれ1点とし、12点満点で計算した。

また、研修最終日に全参加者に対し、行動観察やストラテジーシートの作成に関する感想、デジタルデバイスの利用頻度、WEB版行動観察シートの感想や要望等を問うアンケートを実施した。(参考資料1)アンケートは、参加者が行動観察を記録する上で感じたことについての7つの項目を「そんなことはなかった」を1点とし、「強く感じた」を5点とする5件法で問うものであった。また、行動観察記録をつける際の記録方法、項目以外に感じたことを自由記述にて求めた。

加えてストラテジーシートを作成する上で感じたこと、として7つの項目について「とても難しかった」を1点とし、「とてもわかりやすかった」を5点とする5件法で質問した。さらに7つの項目のうち、特に難しいと思ったものに関しては、その理由を自由記述にて質問した。

表1. 行動観察シートにおける分析項目

事前の項目	「いつ」が書かれている
	「だれと」が書かれている
	「どこで」が書かれている
	「何をしている時」が書かれている
行動の項目	「目的語」が書かれている
	「否定形」で書かれていない
	「行動」が書かれている
	標的行動が一つに絞られている
対処の項目	「対処した人」が書かれている
	「どのように対処したか」書かれている
事後の項目	「行動の増減」が書かれている

「行動の変化」が書かれている

研究結果

研修参加者18名の初回の行動観察シート記録、アンケートともに回収率は100%であった。WEB版行動観察シートを利用していたのは8名、残り10名は手書き及び独自の行動記録フォーマットを行っていた。対象となる研修参加者全体の平均年齢は39.9±13.9歳、WEB版行動観察シート利用群(以下、WEB群)の平均年齢は36.4±13.6歳、従来の手法による行動観察記録を行った群(以下、筆記群)の平均年齢は43.4±7.6歳であった。強度行動障害に関わった経験年数は、全体平均11±14年、WEB群は6±6年、筆記群は16±9年であった。平均年齢、経験年数共にWEB群のほうがやや若い傾向にあった。

パソコンやスマートフォン等のデジタルデバイスの利用頻度について、3つの項目を5件法で質問。「全く利用していない」を1点とし、「毎日使用する」を5点とした。それぞれの項目における結果は表2のとおりであり、すべての項目においてWilcoxonの順位和検定を行ったが、いずれも平均値と差がない可能性が高かった。以上のことから、両群におけるデジタルデバイスの利用頻度には殆ど差が無いことがわかった。

表2. パソコンやスマートフォン等のデジタルデバイスの利用頻度

	WEB群(SD)	筆記群(SD)	全体平均(SD)
ワードやエクセルの使用頻度	4.111(0.737)	4.444(0.684)	4.277(0.731)
インターネットの使用頻度	4.555(0.496)	4.444(0.831)	4.5(0.687)
メール/チャットの送受信頻度	3.555(1.065)	3.888(0.993)	3.722(1.043)

*: p < 0.05 ** : p < 0.01

アンケート結果

アンケート調査の設問「観察シートでの問題行動を記録する際にかかった実際の時間をおおまかにお答えください」において WEB 群 (n=9) と、筆記群 (N=8) の平均記入所要時間は、それぞれ 3.389 分と 5.50 分であった。t 検定 (Welch's test) により片側検定を用いて比較した結果、 $t(10)=0.026$ 、 $p<0.05$ 、 $d=1.19$ で有意差があり、WEB 群の方が有意に記入に要する時間が短いことがわかった。また効果量 (Cohen's d) も大きく、記入時間については WEB 群が短時間で記入できていたことが伺える。

その他、「行動観察を記録する上で感じたこと」に関する各項目における結果は表 3 のとおりであった。各項目において Wilcoxon の順位和検定を行ったが、WEB 群と筆記群に統計的な有意差はみられなかった。筆記群の自由記述欄では、「事前を具体的に記述に当たり、職員から質問を受けた時に適切に答えられなかった。また、これでいいのかと不安になった。」等の文言が見られ、WEB 群の自由記述欄では、「チームで行動記録をすることに対して大きな困難はなかった。しかし、実際は 1 人が記録することとなり、負担感がないか心配になった。」等の文言が見られた。

表 3. 行動観察を記録する上で感じたこと

	WEB 群(SD)	筆記群(SD)	全体平均 (SD)
何を記録するか	2.111(1.196)	2.333(0.816)	2.222(1.031)
迷う			
問題行動が多い	3(1.154)	2.888(0.993)	2.944(1.078)
仕事が増えた	3.111(1.286)	3(1.054)	3.055(1.177)
注目すべき点が多い	3.375(0.856)	3.444(1.165)	3.411(1.032)
記録する時間が無い	1.888(0.874)	2.25(0.661)	2.058(0.802)

記録の負担感	2.888(0.737)	2.444(0.831)	2.666(0.831)
同僚に記録をお願いに	2.333(1.154)	2.333(1.154)	2.333(1.154)
願いに			

*: $p < 0.05$ **: $p < 0.01$

ストラテジーシートに関連する項目の結果は表 4 のとおりであり、各項目において Wilcoxon の順位和検定を行ったが、WEB 群と筆記群に統計的な有意差はみられなかった。自由記述欄には、「事前(に記入すべき事柄)も絞り込む必要があったので、少し迷った部分があった。」「具体的な行動」が何なのか、ことばとして記入するのどの行動を対象とするのか迷いがあった。」「ほめ方、楽しみな活動はいくつかの方法を試したが、上手くいったのか否かが判断しにくかった。」「(望ましい行動)については本人にとって何が一番良いことなのか、保護者と職員で意見が異なった時。」等の文言が見られた。

表 4. ストラテジーシートを作成する上で感じたこと

	WEB 群(SD)	筆記(SD)	全体平均 (SD)
事前	3.222(1.396)	3.333(1.414)	3.277(1.406)
行動	4(1.154)	3.777(1.314)	3.888(1.242)
結果	2.888(1.099)	3.333(1.333)	3.111(1.242)
事前の工夫	3.222(1.227)	3.222(0.916)	3.222(1.242)
望ましい行動	2.444(1.165)	2.777(1.474)	2.611(1.339)
強化の手立て	2.555(1.065)	2(0.471)	2.277(0.869)
起こってしまった時の対応	3.333(1.414)	2.666(0.816)	3(1.201)

*: $p < 0.05$ **: $p < 0.01$

WEB 版行動観察シートに関するアンケート

WEB 群において、「行動観察記録をつける際の記録方法」の項目では、「メモに行動を記録した後、WEB 版行動観察シートに記録」が 6 名であったのに対し「行動観察後、すぐにスマホ等の端末から WEB 版行動観察シ

トに記録」は0名、「問題行動が起こった時間と環境を覚えておき、後でWEB版行動観察シートに記録」が3名であった。また、WEB版行動観察シートを利用する際に利用した端末はパソコンが9名で、スマートフォンやタブレットは0名であった。「WEB版行動観察シートを利用した人」の項目では、自分のみの人が7名、自分と他の職員が2名であった。

筆記群において、「1度でもWEB版行動観察シートのサイトにアクセスした」の項目では、「はい」が5名、「いいえ」が2名、「無回答」が2名であった。結果的にWEB版行動観察シートを利用しなかった理由を自由記述にて質問。「上手くアクセスできず、使用することが出来なかった。」「やろうとしたが断

念しました。手描きよりもパソコン入力したかった。」「ネットに繋がられるパソコンの数が限られているため。」「アクセスしようとしたが、上手く行かなかった。」「皆に手書きで記入してもらったものをそのままPDF化しアップするほうが手間が省けたため。」「アクセスはしましたが、紙ベースのものをコピーしながら使用したため」等の文言が見られた。

行動観察シートの具体性

初回の行動記録を行った際、WEB版行動観察シートを利用していたのは8名、手書き及び独自の行動記録フォーマットで記入していたのが10名であった。それぞれの項目における結果は表5のとおりである。すべての項目においてWilcoxonの順位和検定を行った

表5. 行動観察シートの具体性

	WEB群(SD)	筆記群(SD)	全体平均(SD)	
事前	「いつ」が書かれている	1(0)	0.997(0,006)	0.998(0,004)
	「だれと」が書かれている	1**(0)	0.577(0,283)	0.764(0,283)
	「どこで」が書かれている	0.874**(0,276)	0.246(0,303)	0.525(0,426)
	「何をしている時」が書かれている	0.941(0,081)	0.922(0,098)	0.929(0,091)
	Total	3.814**(0,317)	2.743(0,548)	3.219(0,703)
行動	「目的語」が書かれている	1(0)	0.894(0,264)	0.941(0,204)
	「否定形」で書かれていない	0.992(0,021)	1(0)	0.996(0,014)
	「行動」が書かれている	0.991(0,027)	0.857(0,256)	0.915(0,203)
	標的行動が一つに絞られている	0.812(0,257)	0.723(0,299)	0.762(0,285)
	Total	3.794(0,288)	3.474(0,364)	3.616(0,368)
対処	「対処した人」が書かれている	1**(0)	0.181(0,148)	0.544(0,421)
	「どのように対処したか」書かれている	0.928(0,094)	0.875(0,218)	0.898(0,176)
	Total	1.928**(0,094)	1.056(0,234)	1.443(0,471)
事後	「行動の増減」が書かれている	0.948**(0,137)	0.317(0,332)	0.598(0,409)
	「行動の変化」が書かれている	0.315(0,319)	0.751*(0,312)	0.557(0,382)
	Total	1.263(0,258)	1.069(0,521)	1.155(0,436)
総得点平均		10.799**(0,519)	8.341(0,905)	9.433(1,437)

* : p < 0.05 ** : p < 0.01

結果、「事前」「対処」「総合得点」の項目において、WEB 群の方が有意に高い得点が得られた。また、下位項目においても 4 項目において WEB 群の得点が有意に高かった。「行動の変化」の項目では、筆記群のほうが 5%水準で有意に得点が高いことがわかったが、これは、WEB 版行動観察シートの「行動の変化」を記述する項目において、「行動が増えた場合、あるいは強まった場合、その後どのように対処しましたか？」と教示していることが起因であることが考えられる。

C. 考察

WEB 版行動観察シートを選択し、利用している群は、筆記群と比較して年齢的に若く、職場での経験年数も少ない傾向があったが、パソコンやインターネットの利用頻度には差がなかった。

行動観察記録の具体性は、「行動」「事後」の項目のトータルスコアにおいて違いは見られなかったが、「事前」「対処」のトータルスコアは 1%水準で有意差があり、全項目の平均トータルスコアにおいても 1%水準で有意差が見られた。行動記録に関する研修後初の行動観察記録において、両群の間に差があることから、本アプリケーションを用いることで記録訓練を行うこと無く、多機関連携が可能であると考えられるレベルの具体的な行動記録を行えるようになることが明らかとなった。

しかしながら WEB 群においては、現場での記録環境という課題が示された。WEB 群の記録時間は筆記群と比較して短かったが、多くの利用者は紙に書いて後に記録しておりこの時間を含めると必ずしも記録時間に優位性があるとは言えないと考えられる。また記録

する端末が PC に限られており、職務中(支援中)に携帯端末で記録を行うことの困難が伺えた。

「WEB 版行動観察シートを利用した人」の項目においては、「自分のみ」の人が多く、記入者が限定されるリスクが明らかとなった。

筆記群の多くは、一度 WEB 版行動観察シートにアクセスしようとしているものの、「うまくアクセスできなかった」「皆で手書きをし、それを PDF 化したほうが手間が省ける」といった理由で利用できなかった/利用しなかった、ことがあげられた。

以上の点から、WEB 版行動観察シートは記録者の支援ツールとして記録の具体性の向上などに寄与することが明らかとなったが、WEB 利用のための職場の WEB 利用環境の整備、マニュアル配布やテクニカルサポートの充実が活性化の要件であることが改めて確認された。これらの環境条件が乏しい中では ICT 導入が支援者にとって非効率的だと感じさせてしまう可能性があり、それぞれの職場環境の違いに配慮した選択可能なツール提供が必要であると考えられる。

WEB 版行動観察シートのメリットは情報の共有にある。今回の調査では行動観察シートを内部スタッフで印刷して共有することが多かった。今後、実際に他機関連携を行う際に運用し、その効果を明らかにする必要がある。

D. 文献

東野正幸 川村尚生 井上雅彦 “強度行動障害のある人の支援を目的とした行動測定支援アプリケーションと情報共有支援システムの検証” 信学技術 IEICE Technical Report MICT2014-80 (2015.3)

特になし

E. 健康危険情報

該当なし

2. 実用新案登録

特になし

F. 研究発表

特になし

3. その他

特になし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

【参考資料1】

行動障害参加者アンケート

この度は強度行動障害研修にご参加いただき誠にありがとうございました。
本研修を今後さらにより良いものにするために、お手数ではありますがアンケートの記入をしていただければと思います。本アンケートで記入していただいた内容は、匿名化処理を行い、厳重に保管いたしますので、内容が他に漏れることはありません。基本情報の部分を記入していただいた後、質問の部分を記入していってください。記入には10分ほど時間がかかりますが、それでもよろしい方は協力よろしく願いいたします。

【基本情報】

受講者番号:

年齢:

強度行動障害に関わる仕事の経験年数:

【質問】

1. 研修の内容で、感じたこととして当てはまる数字に○してください。

	とても難しかった	とてもわかりやすかった
①問題行動の観察と記録	1 2 3 4 5	
②ストラテジーシートの作成	1 2 3 4 5	
③ABC分析(事前-行動-結果)	1 2 3 4 5	
④自分の施設/事業所でのミーティング	1 2 3 4 5	
⑤研修全体を通して	1 2 3 4 5	

2. 行動観察を記録した際、感じたこととして当てはまる数字に1つ○をつけてください。また、他に感じたことがあれば、下の自由記入欄にお書きください。

	そんなことはなかった	強く感じた
①何を記録するのか迷う	1 2 3 4 5	

- ◎問題行動が多い 1 2 3 4 5
 - ◎仕事が増えた 1 2 3 4 5
 - ◎注目すべき点が多い 1 2 3 4 5
 - ◎記録する時間が無い 1 2 3 4 5
 - ◎記録の負担感 1 2 3 4 5
 - ◎同僚に記録をお願いしにくい 1 2 3 4 5
- 自由記入欄

3. ストラテジーシートを作成する上で,あなたが感じたこととして当てはまる数字に○をつけてください.また,可能でしたら下の空白部分に,特に難しいと感じた箇所と理由を記入してください.

- | | とても難しかった | とてもわかりやすかった |
|---------------|---|-------------|
| ◎事前 | 1 2 3 4 5 | |
| ◎行動 | 1 2 3 4 5 | |
| ◎結果 | 1 2 3 4 5 | |
| ◎事前の工夫 | 1 2 3 4 5 | |
| ◎望ましい行動 | 1 2 3 4 5 | |
| ◎強化の手立て | 1 2 3 4 5 | |
| ◎起こってしまった時の対応 | 1 2 3 4 5 | |

自由記入欄

4. ストラテジーシートを現場で共有できましたか?当てはまる数字にチェックを入れてください.

- | できなかった | できた |
|---|-----|
| 1 2 3 4 5 | |

5. 現場で実際にストラテジーシートを実行した時,ストラテジーシートを見直す必要があると感じましたか?

あまり感じなかった

強く感じた

1 2 3 4 5

6. サイボウズを利用して,感想として当てはまる数字に○をしてください.また,利用していないものの場合は,数字に○をつけず,右端の□にチェックを入れてください.もし,下記の項目にサイボウズを利用する上で難しいが無かった場合,お手数ですが自由記入欄に記入してください.

	難しかった	簡単だった	未使用
①ログイン	1 2 3 4 5		<input type="checkbox"/>
②東社協へのアクセス	1 2 3 4 5		<input type="checkbox"/>
③チャットの利用	1 2 3 4 5		<input type="checkbox"/>
④掲示板の利用	1 2 3 4 5		<input type="checkbox"/>
⑤ファイルのアップロード	1 2 3 4 5		<input type="checkbox"/>

自由記入欄()

7. パソコンやスマートフォン等の利用について,あなたに当てはまる数字を○してください.

全く利用しない

毎日使用する

①ワードやエクセルの使用頻度	1 2 3 4 5
②インターネットの使用頻度	1 2 3 4 5
③メール/チャットの送受信頻度	1 2 3 4 5

8. 本研修で公開した「WEB 版行動観察シート」を利用していただけましたか?

はい いいえ

8の項目で「はい」にチェックした方は3ページ目を記入してください.

「いいえ」にチェックした方は4ページ目を記入してください.

このページは6の項目で「はい」にチェックを入れた方のみ記入してください.

1. 行動観察記録をつける際の記録方法で,当てはまるもの1つにチェックを記入してください.

- メモに行動を記入した後,WEB 版行動観察シートに記録
- 行動観察後,すぐにスマホ等の端末から WEB 版行動観察シートに記録
- 問題行動が起こった時間と環境,行動の内容を覚えておき,後で WEB 版行動観察シートに記録

2. WEB 版行動観察シートを利用して,当てはまる数字に○を付けてください.また,改善点があれば下の空白部分に記入してください.

	悪い		良い
①直感的に操作できる	1 2 3 4 5		
②記録のしやすさ	1 2 3 4 5		
③記録の見やすさ	1 2 3 4 5		

3. WEB 版行動観察シートを利用する際使用した端末で当てはまるものに全てチェックを入れてください.

- パソコン スマートフォン タブレット
- その他()

4. WEB 版行動観察シートで問題行動を記録する際にかかった実際の時間をおおまかにお答えください.(例:約 1 分/1~4 分)

5. 以下の項目から,追加したら良いと思う機能を選んでください.(複数回答可)

- グラフ化 専門家からのフィードバック 音声入力 動画添付
- 強度行動障害に関する情報サイト その他
- ()

6. サイボウズと WEB 版行動観察シートとの相性は良かったと思いますか?当てはまる数字に○をつけ,その理由を下の自由記入欄にお書きください.

悪かった 良かった

1 2 3 4 5

自由記入欄()

7. WEB 版行動観察シートを利用した人は誰ですか?当てはまるものにチェックを入れてください.
- 自分のみ 自分と他の職員 PC 技能の高い職員
その他()
8. 打ち出された行動観察シートはどのように職場で共有されましたか?当てはまるものにチェックを入れてください.
- 印刷して共有 WEB 版行動観察シートで共有 データ化(画像データ等)して共有
共有してない
9. 研修の感想/要望等ございましたらご自由にご記入ください.

このページは6の項目で「いいえ」にチェックを入れた方のみ記入してください。

1. 1 度でも WEB 版行動観察シートのサイトにアクセスしましたか?また,下の自由記入欄に,結果的に WEB 版行動観察シートを利用しなかった理由を記入してください.

はい いいえ

自由記入欄

2. WEB 版行動観察シートを利用しなかった理由を下の項目から選んでください。(複数回答可)

パソコンやスマートフォンに慣れていない 勉強しなければいけない事が増える

プライバシーの保護が心配 使い方がわからなかった アクセスできなかった

入力が面倒 職場で許可が出ない/許可が必要 職場にパソコン等の端末がない

その他

3. どの様な機能が追加されたら,WEB 版行動観察シートを利用してみようかと思えますか?以下の項目の中から選んでください。(複数回答可)

グラフ化 専門家からのフィードバック 音声入力 動画添付

強度行動障害に関する情報サイト

その他

4. 問題行動を記録する際にかかった実際の時間をおおまかにお答えください。(例:約 1 分/1~4 分)

5. もし,守秘義務の関係で WEB 版行動観察シートが利用できなかった場合,どのような点において守秘義務に引っかかったのかを記入してください.

6. 研修の感想/要望等ございましたらご自由にご記入ください.